

科目名	看護実践基盤学実習(基礎)2			ナンバリング	PEB133	授業形態	実習
対象学年	2年	開講時期	前期集中	科目分類	必修	単位数	2単位
代表教員	大堀 昇	担当教員	木部美知子、矢澤香代子、鈴木直子、鈴木祐子、木村奈緒、河田真理子、助手、他				

授業の概要	看護実践の場に臨み、日常生活援助の必要な成人期から老年期の患者を受け持ち、患者とのコミュニケーション、情報収集、看護計画の立案・修正、バイタルサイン測定、生活援助とその報告・評価という看護過程を展開し、その対象者にとって看護が必要な状況を判断し、対象にあった看護ケアを経験し、それらに必要な知識、技術、態度を身につける。また、チーム医療の一員として行動するための知識、技術、態度を身につけることを学修する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の健康状態を全人的な視点から捉えることができる。 2. 対象の看護問題を明確にできる。 3. 対象の日常生活における看護問題に対して看護計画を立案できる。 4. 立案した看護計画に基づき、安全・安楽に日常生活援助を実施できる。 5. 看護計画に沿って実施した援助を評価できる。 6. チーム医療の一員として看護職者に求められる態度を身につける。 7. 看護学生として責任ある行動をとり、自らの課題をもち実習に臨むことができる。 						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	<ol style="list-style-type: none"> ①今までの学修内容を復習する。 ②実習要項は熟読する。 ③看護技術は自己学修を行う。 						
ディプロマポリシーとの 関連	【看護学部看護学科のディプロマポリシー】						
	<input type="radio"/>	1. 広い視野と豊かな教養に基づき、看護の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を身につけている。					
	<input type="radio"/>	2. EBN(Evidence Based Nursing: 根拠に基づいた看護)に基づき、自律的に看護を実践することができる。					
	<input type="radio"/>	3. 生命の尊厳と人権を尊重する姿勢を身につけ、多職種と連携・協働することができる。					
	<input type="radio"/>	4. 地域の健康課題に関するニーズをとらえ、災害時の援助活動も含め、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。					
	<input type="radio"/>	5. 看護専門職として科学と看護の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学修ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な人間関係形成のためのコミュニケーションができる。 2. コミュニケーション技術及びフィジカルアセスメント技術を用いて必要な情報を収集し、アセスメントできる。 3. アセスメントの結果から看護問題の解決策を計画できる。 4. 原理・原則に基づく日常生活援助を実施できる。 5. 実施した看護援助について記録できる。 6. 保健医療チームの一員として責任ある行動をとれる。 7. 看護学生として責任ある行動をとり、主体的に学習できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者とのコミュニケーションを図り、人間関係を築くことができる。 2. 患者の身体的・精神的・社会的側面に関する必要な情報を収集し、的確な看護問題が明確化できる。 3. 理論を活用して、科学的根拠に基づいた看護計画の立案ができる。 4. 看護計画に沿った日常生活援助を原理・原則に基づき実施できる。 5. 実施した看護援助について記録、評価できる。 6. 保健医療チームの一員として責任のある行動をとり、良好な人間関係が築ける。 7. 看護学生として責任ある行動をとり、自己の課題をもち主体的に学習できる。

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加	○	○	○	○	○		90%
課題レポート	○	○			○		10%

課題、評価のフィードバック	<ol style="list-style-type: none"> 1. 指導は担当教員と臨地実習指導者が協力して行う。 2. 記録、カンファレンスは毎日行い、疑問などは、当日に解消できる体制をとる。 3. 実習最終日に担当教員は学生と個人面接を行い評価をフィードバックする。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	オリエンテーション、受け持ちの紹介、患者の情報収集	実習病院、病棟のオリエンテーション、病棟オリエンテーション・病棟の概要・患者の日課や週間予定・諸注意事項 他 受け持ち患者への紹介 情報収集、テーマカンファレンス	
	第2回	受け持ち患者の看護援助の見学	患者とのコミュニケーションとカルテからの情報収集、受け持ち患者の日常生活援助の見学、テーマカンファレンス	
	第3回	看護過程の展開	環境整備、看護援助の見学・参加 受け持ち患者の看護援助の見学・参加では、担当看護師とともに行動する。 情報収集、アセスメント、看護問題の明確化、テーマカンファレンス	
	第4回	看護過程の展開	環境整備、看護援助の見学・参加 受け持ち患者の看護援助の見学・参加では、担当看護師とともに行動する。 情報収集、アセスメント、看護問題の明確化、テーマカンファレンス	
	第5回	看護過程の展開 学修内容の共有、翌週の看護計画・課題の確認	環境整備、看護援助の見学・参加 看護計画の立案 中間カンファレンス(1週間のまとめ、記録、技術の評価)	
	第6回	看護過程の展開	環境整備、看護援助の見学・参加 看護計画に沿い、必要とする日常生活援助技術の実施、評価 テーマカンファレンス	
	第7回	看護過程の展開	環境整備、看護援助の見学・参加 看護計画に沿い、必要とする日常生活援助技術の実施、評価 テーマカンファレンス	
	第8回	看護過程の展開	環境整備、看護援助の見学・参加 看護計画に沿い、必要とする日常生活援助技術の実施、評価 最終カンファレンス	
	第9回	看護過程の展開、まとめ	評価・修正するケアの実施 実施した援助の結果を評価 施設でのまとめ	
	第10回	実習の総括	2週間のまとめ、記録、技術の評価	
	第11回			
	第12回			
	第13回			
	第14回			
	第15回			
	試験			
授業の進め方	1. 指導は担当教員と臨地実習指導者が協力して行う。 2. 毎日、必要であれば個別に指導を行う。			
授業外学習の指示	(授業外学習時間: 毎週 分)			

教科書	林正健二編:人体の構造と機能(1)解剖生理学第4版、2016 關戸啓子編:疾病の成り立ち(4)臨床栄養学第4版、2015、志自岐康子他編:基礎看護学①看護学概論第6版、2017、松尾ミヨ子他編:基礎看護学(2)ヘルスアセスメント第5版、2018、志自岐康子他編:基礎看護学③看護技術第6版、2017他 ナーシンググラフィカ メディカ出版
参考書	
参考URLなど	実習で使用する記録用紙は、manab@IMUからPDFファイルとしてダウンロードできる。
その他	予習(教科書・資料・看護技術経験録)と復習(実習まとめ発表会)を行う。